

『共同研究講座』について

「共同研究講座」とは

企業等から受入れた資金を活用して**KEK内に研究組織を設置**、
KEKと企業等の共通の研究課題について、**対等な立場で共同して研究**を行うために設置する組織

出口を見据えた優れた研究成果を生み出すことで、KEKとして
研究活動の更なる充実と産業界への一層の貢献を目指す

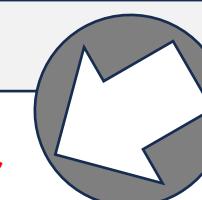
【大学等の一般的な連携方法】

共同研究

- ・個別の研究テーマ
- ・**知的財産は、原則共有**
- ・基本的には各教員が対応

寄附講座

- ・**内部組織として**企業名称を冠した
講座を設置
- ・**大学等のリソースを活用**
- ・あくまで「寄附」
⇒企業等に研究成果物の還元なし



双方のメリット

共同研究講座

→ 研究の促進！

『共同研究』と『共同研究講座』の比較

種別	共同研究	共同研究講座
経費	共同研究費	共同講座運営費
専任研究者	×	○
企業のアピール	×	○ 冠名を命名可能
KEKリソースの利用	△ 契約書で明記した装置のみ	○ フル活用可能
成果の帰属	○	○

『共同研究講座』の概要

企業名を付す
ことも可能

○○共同研究講座



講座研究者



ポスドク、院生

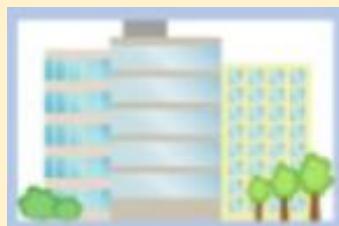


講座研究者
客員教授、クロアボ等



共同研究員

研究成果
企業の開発戦略に
あった確実な研究
成果の還元



KEK

契約

講座設置、出向、クロアボ等

講座運営経費

人件費、謝金、旅費、設備費、消耗品費等

『共同研究講座』の

KEK側 のメリット

①共同研究費の大型化

KEK内に企業等との研究組織を設置することで**共同研究費の大型化**が可能に

②安定した研究基盤構築

企業等の研究者がKEKに常駐等することで、実用化を見据えた研究課題に中長期的に取組可能となり、**安定した研究基盤**が構築。新たな研究展開へも期待

③社会貢献の促進

企業のニーズに応えた共同研究講座の成果を企業等がサービス・製品化することで、**社会へ研究成果を還元**

④研究分野の拡大

企業等の研究者とKEK研究者との日常的な連携が増進されることにより、**研究課題に対する研究分野の拡大、研究所等の横断的な連携**が期待

⑤学生の教育効果向上

企業等名の冠を付けた講座をKEK内に設置することで、**学生等の実質的なインナーシップ**による教育効果が期待



KEK側にも大きなメリット

『共同研究講座』の

企業側

のメリット

①共同研究が加速

講座研究者配置による研究のスピードアップ、効率的な展開に加え、企業等の中長期的な研究開発戦略に合致した確実な研究が期待

②知的財産の共有

原則、知的財産の持ち分を定めた共同出願契約を別途締結した上で、企業側等のメリットも十分配慮し特許等の共同出願を実施

③組織的サポート

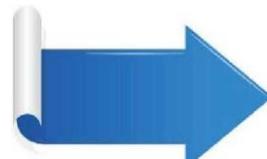
講座はKEKの組織となり、KEK内リソース（保有設備等）のフル活用が可能。研究者間の「横のつながり」も期待

④研究者としての研究活動

KEKの様々な知見や研究シーズへのアクセスが容易となり、新たな研究展開が期待

⑤学生等へのPR効果

講座にポスドクや学生を置くことも可能であり、学生等への企業PR効果も期待でき、優秀な学生等の採用も期待



企業側にも大きなメリット

『共同研究講座』の流れ

